

学校だより



平沼

令和3年9月30日・10月1日

横浜市立平沼小学校

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranima/>



コロナ禍の「平沼に生き、平沼から輝く子」

教務主任 石川 和之

心地よい秋風が吹き抜ける季節となりました。皆様には益々ご清祥のことと拝察いたします。

夏休み明けから始まった臨時休業、分散登校、家庭学習にオンライン授業と、地域や保護者の皆様には多大なるご協力をいただきましたこと、誠にありがとうございました。9月30日で緊急事態宣言は解除となりますが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクは依然高い状況です。引き続き、感染症対策に取り組んでまいりたいと存じます。

さて、9月は非常に残念なことがありました。「平沼水天宮例大祭」で子どもたちが参加できる行事のほとんどが2年連続、中止になったことです。本校でも5、6年生の神楽殿発表のある9月4日土曜日を授業日と設定していました。また、何より子どもたちが楽しみにしていた神輿担ぎも中止となってしまいました。

本校では毎年、保護者の皆様に学校評価アンケートをお願いしており、右の資料はそれを集約したものです。その中で特に注目した項目が「子どもは、生活科、総合的な学習の時間等で地域や社会とかわかり、地域の行事や祭礼等に参加し、地域のよさを感じていますか」です。まさに、学校教育目標の「平沼に生き、平沼から輝く子」の中の、「平沼に生き」に関わる項目ととらえております。

同じような子ども向けの設問が横浜市学力・学習状況調査の質問紙にもありますが、令和元年度のように63%もの人が「そう思う」と回答している学校は市内を探してもほとんどありません。本校が、地域の高い教育力に支えられているからこそだと考えます。しかし、昨年度は29%にまで落ち込みました。コロナ禍で地域の方とのかかわりが難しかったからでしょう。このことから、地域行事を通して子どもたちがまちで生き、まちで育っている平沼らしさをあらためて認識いたしました。

本校の教育課程の中には、生活科や総合的な学習の時間に関わらず様々な教科で地域教材を扱ったものが多くあります。それは長年、自分のよさを生かし学びをつくる子をめざして授業実践を続けていく中で、「平沼のまちでの体験を通した学び」こそ、大事だと考えてきたからです。タブレット等の一人一台端末を効果的に活用しつつ、一方ではできる限りの「平沼のまちでの体験」を取り入れた学びも大切にしていきたいと考えます。「平沼に生き」る子どもたちが平沼のまちを舞台に、地域や保護者の皆様とかわかり、その姿に学びながら自らの生き方を切り拓き、「平沼から輝く子」となって成長できるよう、今後も教育活動を推進してまいります。

10月は1年の学習の折り返しの時期です。後期からもどうぞよろしくお願いいたします。

